

みくりや

第6号

国立駿河療養所広報誌



駿河神社例祭 神事風景

国立駿河療養所の理念

私たちは入所者の皆さまが安心して療養生活のできる環境の提供につとめます。

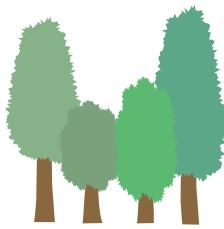
国立駿河療養所の基本方針

- 入所者の皆さまの人格を尊重します
- 安全で快適な生活ができるようつとめます
- 安心して受けることのできる医療を提供するようつとめます
- ハンセン病の正しい知識をひろめ地域との交流をめざします

目 次

駿河神社例祭	2
新任職員あいさつ	3
研修記	5
盆踊り大会にて	6
主な行事	7
こちら駿河探検隊	12





駿河神社例祭



平成28年10月20日（木）11時より駿河神社例祭が執り行われました。駿河療養所の東南端富士山の全域が眺望できる富士見台に駿河神社があります。毎年この時期に斎行される安全祈願のための例祭です。今年は天候に恵まれ暖かい気候の中、入所者、職員、御殿場市長、県・市議会議員、地元代表者、静岡県神社総代会、敬神夫人連合会、元職員等々多数の参列により古式ゆかしき静謐な式典が執り行われました。

駿河神社は、静岡県敬神婦人連合会が駿河療養所を慰問された際、神社が無いこと、また、入所者が神社を欲していることを知り、これを全国敬神婦人連合会に相談したところ、昭和32年4月20日国立駿河療養所に神社を設立する事が決議されました。これにより、静岡県敬神婦人連合会も同様に決議し、両団体が中心となり設立することとなりました。

この話を聞いた伊勢神宮は、昭和28年第59回式年遷宮の際の攝社一宇（伊勢市宇治館町鎮座 大山祇神社社殿）を下賜せられることを決定しました。

昭和32年9月12日、地鎮際。11月25日、午後3時新殿祭、同5時鎮座祭を斎行し、同年12月15日に竣工しました。

本殿は、伊勢神宮から拝受したもので、完全なる神宮攝社が地方に原型のまま建てられたものは全国に類の無いことです。

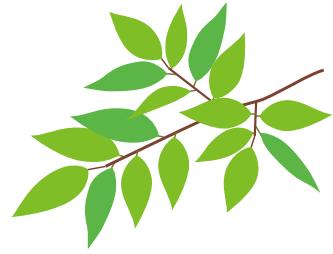
神社名を「駿河神社」としたのは、この地が駿河の國であり、また、ここの療養所の名（駿河療養所）に因んだものです。

御祭神は、天照大神、浅間大神、少彦名神の三柱を奉斎している。



第1センター食堂 職員による神輿担ぎとお囃子風景

新任者自己紹介



病棟 佐藤 やす代

こんにちわ

6月より、縁あって就職しました「佐藤 やす代」と申します。病棟に勤務しております。

私は三島で生まれ育ち、三島の近隣以外の土地を知りません。実は看護学校も駿河療養所です。39期生で平成5年に卒業しました。卒業後、こちらに就職するまでは裾野の透析の病院で働いておりましたが、テレビで駿河療養所の入所者の方が、60数名に減ってきていることを知り、此処に帰ってきたいという気持ちになりました。入所者の皆様、職員に暖かく迎えて頂き、感謝の気持ちで一杯です。

少しでも恩返しが出来るよう、ゆっくりではありますが一歩一歩前に進んでいけたらと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。



第2センター 渡邊 貴代美

本年6月より駿河療養所第二センターでお世話になっております。25年前に一度見学に伺いましたが、まだ現在の第二センターや第三センター・第五センターは建っておりませんでした。本年、4月25年ぶりに見学させていただき、四季折々の豊かな自然に囲まれ、素晴らしい建物がたくさんあり驚きました。このような素晴らしい環境で仕事できたらとワクワクしておりました。

40歳を過ぎ介護の仕事に従事するようになり、介護員としても未熟であり療養所のシステムなど十分に理解出来ていない私に、先輩方々は丁寧に仕事を教えてください、良い環境にめぐまれたと実感しながら、足手まといにならぬよう日々取り組んでおります。また入所者の皆様から昔の話を聞き、毎日勉強させていただいております。私にとって入所者の皆様は人生の先輩であり、恩師でもありますので学ぶことがとても多いです。その方々のより良い人生サポートを考え、実行できるようこれから一生懸命努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



病棟 八木 文

こんにちわ。8月1日より病棟勤務になりました“八木 文”と申します。私は、国立駿河療養所附属准看護学校の39期生です。皆様には実習や戴帽式・卒業式等々大変お世話になりました。当時、私は（今でもですが、、）勉強がとても苦手で、到底面目とは言えない生徒でした。そんな私にも実習の時、皆様はとても優しく接して下さり、ゲートボール場でゲームを教えて頂いたり、リハビリ室で一緒にマッサージチェアに座らせて顶いたり、お部屋でお話を聞かせて頂いたりした事覚えています。



そして今、駿河療養所で働くことになったのも何かのご縁かと思っております。私が言うのは鳥誂がましいことですが、少しでも皆様に御恩返しが出来ればと思っております。まだまだ未熟ではありますが、一生懸命頑張ります。どうぞ、よろしくお願ひ致します。

薬剤科 菱田 典宏

皆様はじめまして。本年10月1日付で三重県の三重中央医療センターから薬剤師として赴任してきました菱田典宏と言います。



出身は愛知県名古屋市で大学時代は徳島に住んでおりました。

現在はこちらへ引っ越しして来たのですが緑が多く空気もきれいでとても暮らしやすいので来てよかったです。

趣味は美味しいものを求めて出かけることです。以前は関アジを求めて大分まで足を伸ばしたりしていました。駿河療養所近辺は山も海も近く自然に恵まれているので美味しいものがたくさんあるのではないかと非常に楽しみしております。

新しい環境になり戸惑うことも多く、また薬剤師としても経験不足でまだ未熟者ではありますが懸命に学びすこしでも駿河療養所の役に立てるようになりたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

第2センター 梅井 正美

本年10月より第2センターにお世話になりました梅井（かこい）と申します。主人の転勤で兵庫県より来ました。若い頃よりハンセン病療養所に勤務したいと思っていましたが近くには施設が無く諦めておりました。



裾野で療養所から社会復帰されたご婦人とお会いしてこんな近くに療養所があることを知り、いてもたってもいられず門を叩きました。入所者の皆様と関わらせていただき、いろんなことを教わり毎日楽しいです。

ここから見える富士山の美しさに感動しております。志ある先輩方にご指導いただき日々精進してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

研修記

たくさんの仲間との絆

病棟 小野 汐梨



9月6日から9日の4日間、独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ乗鞍青年共同宿泊研修に参加しました。この研修は東海北陸グループの機関病院に勤務する青年層職員を対象に、計画的な規則正しい共同生活を通して、自発性、協調性及び連帯感を習得させ、帰属意識の向上、自己啓発及び職務能率の増進を図ることを目的としていました。今回で6回目の開催でしたが、駿河療養所からの参加は初めてだったようです。参加するまでは、ひとりということもあります、期待より不安が大きかったです。

実際に参加してみると、部屋割り・各活動のグループが4班あり、研修生みんなと広く関わりがもてるよう工夫がなされていました。研修生の年齢が近いこともあります、すぐに打ち解けることができ、楽しく研修することが出来ました。

スキルアップ研修ではマインドフルネストレーニングについて学びました。これは数分間の瞑想トレーニングをすることにより幸福感が上がると言われているそうです。体験してみると、数分で心と身体がリフレッシュした気分になり、その後の活動に対する集中力が高まったように思いました。マインドフルネストレーニングを日常生活に取り入れ習慣化させることで仕事と休息の切り替えに役立て、仕事のパフォーマンス向上に繋げていけると思います。

仲間と仕事に関する悩みを共有し、解決に向けた話しをすることができました。他職種の方とも交流することができ、視野が広がったと思います。

今回の研修で施設を超えた研修生間のネットワークを構築することができました。たくさんの仲間ができたことで更に帰属意識が高まりました。

この研修に参加させていただき療養所の皆様に御礼申し上げます。



納涼盆踊り大会にて

納涼盆踊り大会の司会

安藤 和徳

4月に赴任して来た私には、初めての納涼盆踊り大会でした。楽しみにしていた反面憂鬱もありました。というのは、お祭りの司会という大役を任せられたのです。

相棒の看護師長さんと、詳細な台本を練り、何度も修正変更をし、練習もしました。当日、緊張もピークに達しいぎ本番。お祭りの始まりです。



事務本館前広場

やっぱり台本通りにはいきませんね。あたふたしながらも何とか時間調整をしつつ、盆踊り・来賓挨拶・阿波踊り・一色太鼓と進め、いよいよクライマックスの花火の時間です。打ち上げ開始はカウントダウンで行いたかったので、事前に花火師の方とも念入りな打ち合わせをしました。うまくタイミングが合うかとても心配でしたが、皆さんのかウントダウンの大きな声が花火師の方にも届いたのでしょうか。ピッタリのタイミングで打ち上げ開始。ほっと胸をなでおろし、素晴らしい花火に見入ってしまいました。盛大な花火が終わり、最後にもう一度盆踊りで盛り上げ、お祭りを終えるとともに司会の大役も無事終えることが出来ました。

職員はもちろん、入所者の皆さん、静岡医療センターの看護学生の皆さん、そして地域の皆さんのご協力、たくさんの方々のご参加、そして何より、皆さんの笑顔を見ていると「繋がってるなー」と、しみじみ感じました。

来年が楽しみです。



主な行事

6月6日(月)

医療安全管理室 Dr.ハリーコール参集訓練

13:45~14:15

「Dr. ハリーコール参集訓練」の様子です。研修当日、緊急放送があるまで訓練場所と時間は秘密で、担当者の隠密裏の準備により緊張感と臨場感にあふれた研修となっています。一次救命処置の研修を修了した精鋭が率先して救命に当たり、マニュアルも年々グレードアップしています。



第5センター食堂にて

7月8日(金)

全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会意見交換会

平成28年7月8日（金）午前、全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会の首長さん等々が来所され、納骨堂で献花、自治会長よりお礼の挨拶の後、場所を講堂に移し所長の挨拶と現状説明をし、有意義な意見交換をしました。



講堂前にて

7月22日(金)

ハンセン病対策議員懇談会元会長来所

平成28年7月22日（金）に、ハンセン病対策議員懇談会の元会長として江田五月参議院議員が来所され、所長・会長と面談したのち納骨堂にて献花をされました。今年の参議院議員選挙には出馬しないということをお聞きしました。長い間、ハンセン病対策にご尽力頂き、お疲れ様でした。



納骨堂にて



事務本館応接室にて

7月28日(木)

第34回駿河納涼カラオケ祭

平成28年7月28日（木）午後から講堂にて第34回駿河納涼カラオケ祭が開催されました。入所者、職員、職員家族、地域からの友情エントリー等々、楽しい一時を過ごしました。今年一番驚いたのは、入所者のエントリ一年齢が105歳の女性と100歳の男性を筆頭に6名、平均年齢はなんと92.6歳であるということです。



講堂にて

8月4日(木)

駿河納涼盆踊大会

平成28年8月4日（木）17時20分から毎年恒例の駿河納涼盆踊大会が、事務本館前広場にて開催されました。当日は天候にも恵まれ3000発の花火も大変綺麗に観ることが出来ました。また、毎年地域からの集客数を掴むことをしなかったので、今年は、自治会の協力を得て千枚の団扇を作り参加者に配布しました。しかし、直ぐに底をつき、結局1000人以上ということはわかりましたが詳細は不明のままです。多いに盛り上りました。



事務本館前広場



グランドから打ち上げ

8月25日(木)

愛知県大村知事と 愛知県地域婦人団体連絡協議会の方々来所

平成28年8月25日（木）午後、愛知県大村知事と愛知県地域婦人団体連絡協議会の方々が来所され、納骨堂にて献花の後、場所を講堂に移し知事と県地婦連合会長から挨拶を頂きました。愛知県人会長の挨拶と、それぞれの入所者が自己紹介等を兼ねて挨拶し、意見交換を行いました。今回、大村知事は2回目の来所です。有り難うございました。



講堂にて



講堂にて

9月15日(木)

敬老祝賀会

平成28年9月15日(木)午後から富士見会館にて敬老祝賀会が開催されました。

対象者は全入所者62名であり、御殿場市からも健康福祉部長にお越し頂き、記念品を頂戴しました。余興は地域の保土沢おかめヒョットコ会から5名にお越し頂き、爆笑する楽しい一時を提供頂きました。また来年も誰1人かけることもなくお祝いをしたいと感じました。



富士見会館にて



富士見会館にて

9月26日(月)

東京高等裁判所長官、沼津支部長、秘書官来所

東京高等裁判所長官、沼津支部長、秘書官の3名が来所されました。資料館の見学、所長・小鹿会長との面談、そして施設見学後、神山復生病院へ向かわれました。



ふれあいセンター研修室にて



ふれあいセンター研修室にて

9月27日(火)

ふれあいフェスタ(運動会)

平成28年9月27日(火)午後、ふれあいフェスタ(運動会)が講堂にて開催されました。

準備体操のあと、パン食い歩き、玉入れ、クイズ、最後に表彰式を行い、入所者に楽しんでいただき、職員もやりがいを感じました。



講堂にて



講堂にて

10月15日(土) 映画「あん」の無料上映会

平成28年10月15日午前と午後に講堂にて映画「あん」の無料上映会を開催しました。多くの入所者と職員、そして地域から大勢(350名)の方々に来て頂き、みな考えさせられる映画に見入っていました。上映会までご尽力頂いた関係者の皆様に感謝いたします。



講堂にて



講堂にて



こちら駿河探検隊



今回は『綿打工場と木工部作業場』をご紹介します。駿河療養所では現在でこそ入所者さんのお世話をする多くの職員がいますが、昔は職員の方が少なく、入所者さんは自分たちで所内の仕事を分担していました。

その中で『綿打工場』は所内の布団などの寝具・座布団の綿を名前通り打ち直したり手縫いや足踏みミシンを使って縫製し、『木工部作業場』では所内で使う家具や道具などの木工品を作っていたとのこと。そうして作られた物はとても丈夫で、現在でも所内で使われているものもあります。

実際木工部で働いていた入所者さんに聞くと「俺たちが作った家具は頑丈だからな、ちょっとやそっとの事じゃ壊れないぞ? 部屋の寸法ピッタリに作った物なんかはそこから引っ越す時に取り出せなくなつてな、壊すにも一苦労だ!」と誇らしげに笑い「男性は木工所で、女性は綿内工場でワイワイ話しながら仕事したものよ。時々男性がちょっとかい出しきたりしてね。」と懐かしそうにしていました。
※この場所は現在、立ち入り禁止になっており外から眺めるのみとなっております



▲綿打工場



▲木工部作業場

みくりや・みくり(御厨)とは、「御」(神の)+「厨」(台所)の意で、神饌を調進する場所のことである。

本来は屋舎を意味するが、神饌を調進するための領地も意味する。

中世日本においては、皇室や伊勢神宮など、有力な神社が荘園(神領)を持ち、後に地名及び名字として残った。

当国立駿河療養所のある御殿場市、及び隣接する小山町と裾野市の一部を御厨(みくりや)と呼ぶようになったのは、平安時代後期(1100年頃)、伊勢神宮の荘園「大沼鮎沢御厨」があったためである。



職員募集 (看護師・介護員)

入所者の皆さんに関わることで、ケアの原点を見つめ直すことが出来ます。ぜひ、一緒に働きましょう。

お問い合わせは、総看護師長室までお願いします。

発行責任者：福島 一雄

発 行 所：国立駿河療養所

住 所：〒412-8512 静岡県御殿場市神山1915

T E L：0550-87-1711

F A X：0550-87-1921

発 行 日：平成28年11月

ホームページアドレス：<http://www.nhds.go.jp/~suruga2/>



案内看板